



古河機械金属株式会社 (5715)

機械事業は M&A 統合による成長加速へ期待

2026年06月12日

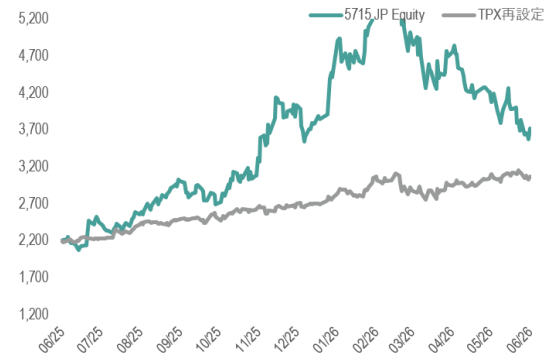
26 年 3 月期 4Q 決算アップデート

- 中計の主要目標を達成したが、機械事業は未達 – 26 年 3 月期の業績は、銅や金を中心とする金属価格の高騰を追い風に、3 度上方修正された会社予想を上回り、中期経営計画の主要指標を達成した。しかし、機械事業は産業機械部門の受注残高の薄さ、ユニック部門の原材料コストの価格転嫁の遅れが響き、中計の営業利益目標および構成比率を下回った。こうした経営環境下において、経営陣は債務水準のコントロールと株主還元を重視する姿勢を維持している。27 年 3 期に向けて、会社側は機械事業の回復と金属部門の反落を見込んでいるが、金属部門の保守的な見通しに対して、当社は上振れ余地があると捉えている。

コア事業へ原点回帰

- M&A の統合による成長加速 – 機械事業の力強い見通しを反映し、当方の 27 年 3 期～29 年 3 期の売上高および営業利益予想を上方修正した。この上方修正は、アーステクニカの完全子会社化（残り 40%の株式取得）が主導するものである。また、三井三池製作所の出資比率引き上げ（20.0%から 34.1%へ）に伴う持分法投資利益の増加も、当期純利益の成長をさらに下支えする見込みである。一方で、同期間中に金属部門の業績は正常化すると想定しており、フリーキャッシュフローの創出は主にコア事業である機械事業が牽引する見通しである。
- バリュエーション – 27 年 3 月期の利益に基づくと、同社株式は PER15.2 倍、配当利回り 2.1%にて取引されている。

株価: 3,725 円 時価総額: 1,212 億円



出所:ブルームバーグ

リターン				
	YTD	1M	3M	12M
絶対 (%)	-3.1	-11.6	-24.3	+69.3
相対 (%)	-14.9	-11.8	-28.8	+21.4
セクター				
非鉄金属 (TOPIX)				
機械 (GICS)				
株式データ				
株価(円)	3,725			
時価総額 (10 億円)	121.2			
時価総額 (100 万ドル)	756.2			
52 週レンジ (円)	2,065-7,140			
発行株式数 (100 万株)	32.5			
日次平均出来高 (100 万ドル)	18.0			
浮動株 (%)	68.6			
外国人株式保有比率 (%)	17.6			
コード	5715			
取引所	Tokyo Prime			
純有利子負債/自己資本(倍)	0.5			
FFO レバレッジ(倍)	17.3			
ブルームバーグ 買い ホールド 売り	0 0 0			

出所:ブルームバーグ

年度	FY3/25	FY3/26	FY3/27E	FY3/28E	FY3/29E
売上高 (10 億円)	201.22	211.08	237.61	244.77	253.25
営業利益 (10 億円)	9.76	11.30	9.29	12.29	12.89
純利益 (10 億円)	18.62	12.78	8.11	8.76	9.04
EPS (円)	510.64	384.65	244.27	263.77	272.10
1 株当たり配当 (円)	70.00	80.00	80.00	80.00	81.00
売上高伸び率 (%)	+6.9	+4.9	+12.6	+3.0	+3.5
営業利益成長率 (%)	+14.5	+15.7	-17.8	+32.2	+4.9
純利益成長率 (%)	+15.7	-31.4	-36.5	+8.0	+3.2
EPS 成長率 (%)	+19.0	-24.7	-36.5	+8.0	+3.2
PER (倍)	7.3	9.7	15.2	14.1	13.7
EV/EBITDA (倍)	8.9	7.9	8.7	7.2	6.9
EV/売上高 (倍)	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5
PBR (倍)	0.9	0.8	0.8	0.7	0.7
ROE (%)	14.3	9.2	5.3	5.3	5.1
ROCE (%)	4.8	5.0	3.9	4.9	4.9
FCF 利回り (%)	(6.3)	(1.2)	(17.3)	(5.9)	(4.8)
配当利回り (%)	1.9	2.1	2.1	2.1	2.2
株主還元利回り (%)	4.7	8.8	2.1	2.1	2.2

出所: 会社データ、アストリス・アドバイザー

※当社の FCF は、営業活動によるキャッシュフローから、有形および無形固定資産の取得に係る支出を差し引いて算出

事業概要

古河機械金属はインフラ・建設現場向けの機械製品、半導体・電子機器用の電子材料やケミカル製品の製造・販売、東京に所有の商業ビルの運営を行う。

アストリス・サステナビリティ ESG レーティング

参考レーティング	
MSCI	N/A
Sustainalytics	N/A
Refinitiv	45.7
CDP	N/A
S&P Global	N/A
Bloomberg	4.06

次のイベント

2026 年 8 月: 27 年 3 月期第 1 四半期決算発表

電話: +81 3 6868 8797

Eメール: Corporateresearch@astrisadvisory.com

本レポートは同社から委託され、支払いを受けて作成されている

直近の決算

26 年 3 月期決算

会社予想を全面的な上振れ

主要財務データ

(10 億円)	FY3/25 1-4Q	FY3/26 1-4Q	前年比 (%)	FY3/26 会社予想 (3 回目修正)	進捗率 対会社予想 (3 回目修正)
売上高	201.22	211.08	+4.9	206.20	102.4
総利益/(損失)	29.56	32.20	+9.0		
総利益率 (%)	14.7	15.3			
販管費	19.79	20.91	+5.6		
営業利益/(損失)	9.76	11.30	+15.7	9.00	125.5
営業利益率 (%)	4.9	5.4			
経常利益	9.71	13.73	+41.5	10.90	126.0
親会社株主に帰属 する当期純利益	18.62	12.78	-31.4	11.00	116.2

出所: 会社データ

3 度上方修正された会社予想をさらに上回る着地

会社の業績予想

(10 億円)	26/3 期 会社予想 (旧)	26/3 期 会社予想 (1 回目修正)	26/3 期 会社予想 (2 回目修正)	26/3 期 会社予想 (3 回目修正)	26/3 期 実績
売上高	193.00	194.00	197.50	206.20	211.08
営業利益	7.00	7.70	8.00	9.00	11.30
営業利益率 (%)	3.6	4.0	4.1	4.4	5.4
経常利益	7.00	8.20	9.40	10.90	13.73
経常利益率 (%)	3.6	4.2	4.8	5.3	6.5
当期純利益	5.00	5.40	7.50	11.00	12.78
当期純利益率 (%)	2.6	2.8	3.8	5.3	6.1

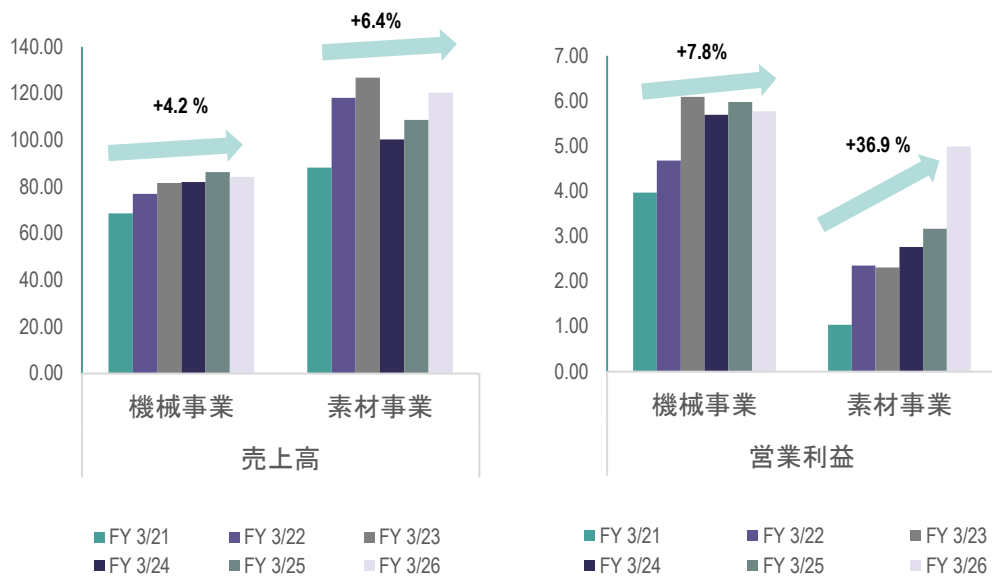
出所: 会社データ

主要ハイライト

26 年 3 期の好調な業績は、主要な財務指標において 3 度上方修正された会社予想をさらに上回る着地となった。これは、同社の主軸である銅生産の副産物として得られる金の価格の高騰が牽引したものである。

金属市況の高騰に支えられた素材事業の成長加速

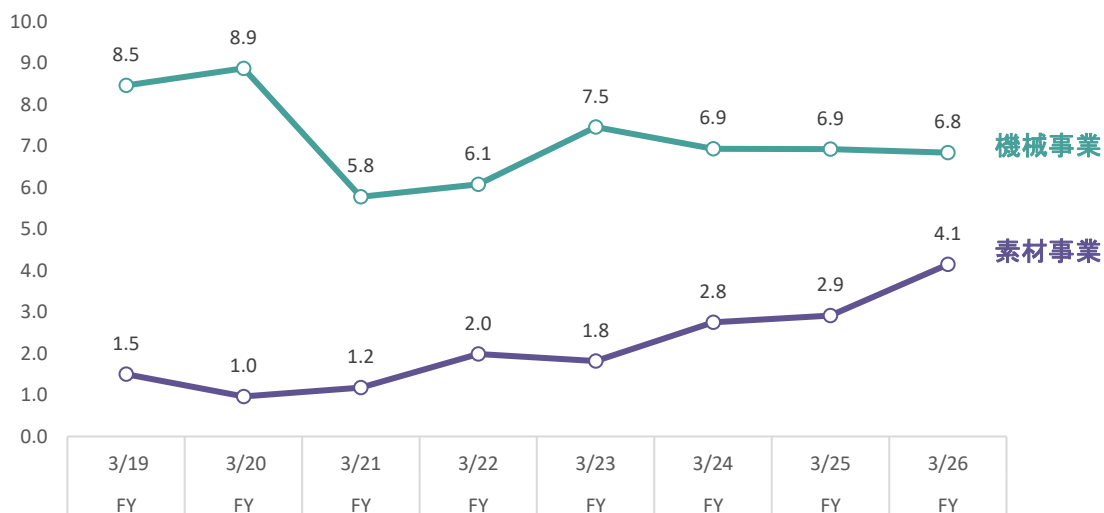
売上高・営業利益の推移(10 億円)、CAGR(年平均成長率) 21 年 3 期～26 年 3 期



出所: 会社データ、アストリス・アドバイザリー

素材事業における利益率の改善傾向

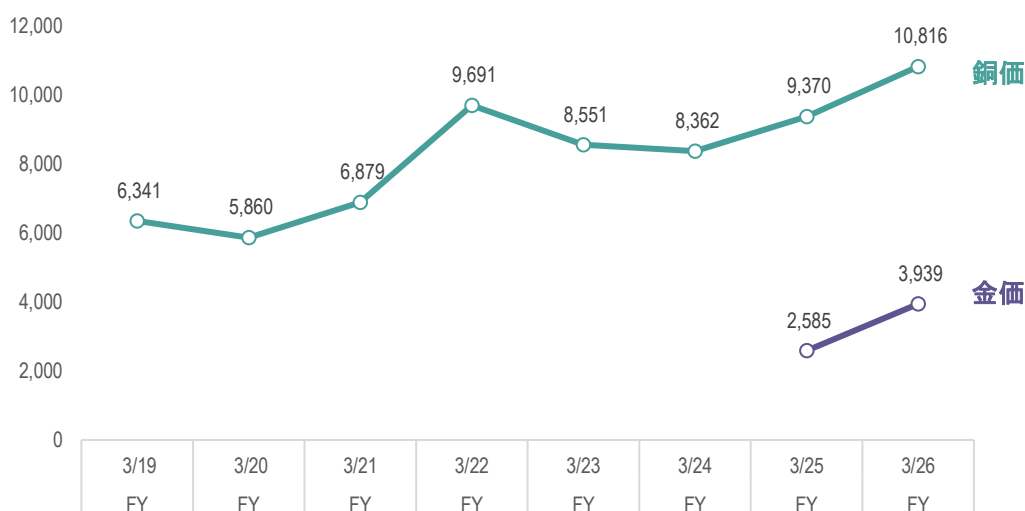
セグメント別営業利益率(%)



出所: 会社データ、アストリス・アドバイザリー

銅・金価格の高騰により、金属部門の利益を押し上げ

金属価格の推移(銅:米ドル/トン;金:米ドル/オンス)



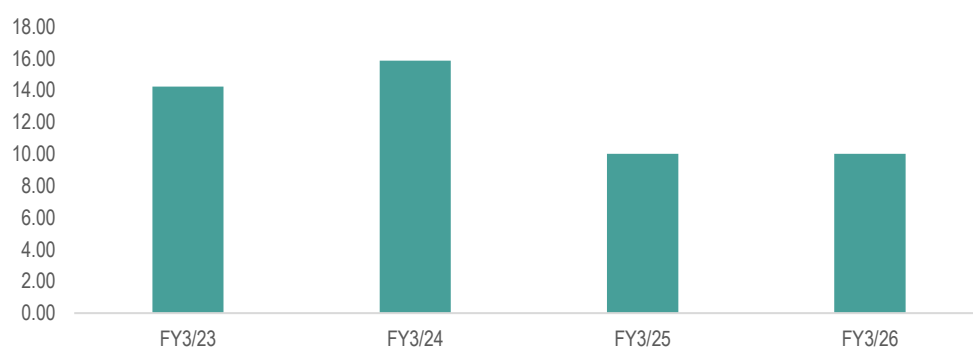
出所: 会社データ、アストリス・アドバイザリー

足踏みが続く機械事業

26 年 3 月期に、機械事業全体としては、売上高が前年同期比-2.4%、営業利益が同-3.5%と減収減益を余儀なくされた。その主な要因となったのが産業機械部門の低迷である。同部門では、砕石プラント、ポンプ設備の売上高減少に加え、橋梁工事の出来高減少などが重なり減収となった。また、プラント工事案件において、工程管理および原価管理不足により 24 年 3 月期に損失を計上し、事後対応に人的リソースを集中せざるを得なかった結果、26 年 3 月期に向けた受注活動が停滞したことや、複数のベルトコンベヤのプロジェクト案件の発注遅れ等によって期末受注残高が低かったことも業績に大きな影響を与えた。今期(27 年 3 月期)は、ベルトコンベヤのプロジェクト案件の出来高増等を見込み、増収予想としている。

期末受注残高の減少

産業機械部門の期末受注残高の推移(10 億円)



出所: 会社データ、アストリス・アドバイザリー

ロックドリル部門の業績は、26 年 3 月期売上高が前年同期比+4.1%、営業利益が同+2.0%と増収増益を達成した。国内市場においては、油圧クローラドリル、トンネルドリルジャンボの出荷増も、整備事業における売上高減等により、減収となった。一方で、海外市場は、設備投資が堅調な北米向けおよびアフリカ向けの油圧クローラドリルの出荷増などにより、増収となった。さらに、為替の円安基調も海外の売上・利益を押し上げる追い風となっている。一方、「中期経営計画 2025」においては、米国の高金利およびインフレ長期化を背景とした住宅・建設市場の減速が響き、ロックドリル部門における「海外での数量成長と利益率向上」の同時達成には至らなかった。27 年 3 月期の見通しについては、海外需要の継続に加え、国内市場の回復も見込んでいる。前期に利益圧迫要因となった製品不具合対策費用の発生という一過性要因が解消されることもあり、会社側は営業利益ベースで 2 桁以上の伸びを予想している。

国内売上が約 8 割を占めるユニック部門は、近年の国内トラック不足に伴う架装停滞から伸び悩みが続いていた。26 年 3 月期も国内クレーン出荷の低迷による減収が響いたものの、アジア向け主体の海外出荷拡大が営業利益向上を牽引。部門全体では売上高前年同期比+1.6%、営業利益同+30.3%と増収増益で着地した。27 年 3 月期は、トラックの供給回復による国内市場の復調と、海外需要の取り込み、鋼材などの原材料価格の高騰に対して実施した価格転嫁の効果を背景に、会社側は営業利益+33.5%の大幅増益を見込んでいる。

その他

2026 年 4 月 1 日付で連結子会社化した株式会社アーステクニカは、国内トップクラスのシェアを誇る総合破碎機メーカーである。「砕く技術」をコア技術とし、海外鉱山向けの大型機械から医薬品などの微粒子レベル向けの粉碎機、環境・リサイクル機器まで幅広く事業展開を行っている。今後は新設された「アーステクニカ部門」をコア事業である機械事業の第 4 の柱として、新たな成長機会を確実に捕捉していくことが期待される。

加えて、持分法適用関連会社である三井三池製作所は、荷役運搬機械等を主力とする、産業機械および装置の製造販売を手がけ、産業機械部門とロックドリル部門の関連製品を有しており、機械事業の隙間を埋めて連続性を創り、営業面、生産面でのシナジー創出が見込まれる。古河機械金属は、これら 2 社とのシナジー追求および経営資源の投下により、コア事業である機械事業の強化を図っていく方針である。

なお、26 年 3 月期の業績においては、三井三池製作所の持分法適用関連会社化に伴う「負ののれん発生益」を含めた 22 億円が営業外損益に計上されたことが大きく寄与し、経常利益は前年同期比+41.5%と大幅な増益を達成した。

一方、素材事業に属する電子部門では、半導体製造装置需要の回復に加え、高純度金属ヒ素の価格上昇、さらには窒化アルミセラミックスに対する旺盛な需要が追い風となり、営業利益が大幅に拡大した。同時に化成品部門では、急拡大する AI サーバーの導入需要を捉え、最先端のパッケージ基板向け酸化銅の需要喚起に成功している。船底塗料向けの亜酸化銅において出荷量の減少に伴う弱含みが見られたものの、適切な価格改定（価格調整）によってその影響を十分に相殺し、強固な収益性を維持した。

中期経営計画(24 年 3 期～26 年 3 期)の進捗総括

「2025 年ビジョン(FURUKAWA Power & Passion 150)」

定量評価

主要指標	目標	実績	達成評価
連結営業利益	130 億円	約 112 億円	×
ROE	8.0%	9.2%	○
営業利益構成比(機械事業)	約 80%以上	約 50%	×
デット・エクイティ・レシオ	0.5 倍台	0.4 倍	○
有利子負債／EBITDA 倍率	3 倍台	3.5 倍	○
連結自己資本総還元率	>3%	7.7%	○
政策保有株式連結純資産比率	<20%	25.8%	△
自己株式取得	15-20 億円	約 80.7 億円	○

出所: 会社データ、アストリス・アドバイザリー

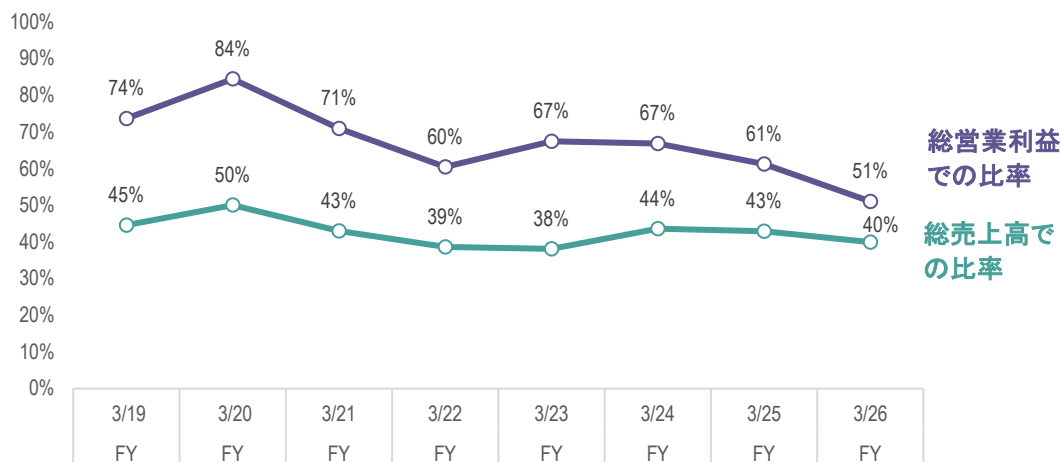
ポートフォリオの再構築が遅れる

古河機械金属は、ROE、レバレッジ管理、および株主還元において目標を達成した。これは資本規律と財務健全性へのコミットメント強化を浮き彫りにするものであり、次期中期経営計画でもこれらの優先事項はさらに強化される見込みである。

反面、本業の営業利益およびポートフォリオの構成比率はアンダーパフォームとなった。この未達の主因は、産業機械部門において、大型プロジェクトに対するマネジメント能力の不足、受注活動の停滞、ユニック部門において、高騰する原材料コストの価格転嫁の遅れであり、さらに機械事業を中心とする外部環境の変化による逆風も重石となった。

機械事業自体は拡大基調を維持したものの、グループ全体の営業利益に占める同事業の構成比は、20 年 3 期の 84%から 26 年 3 期には 51%へと縮小した。この相対的な低下は、同事業の成長が想定を下回ったことに加え、金属部門の力強い業績モメンタムの陰に隠れてしまったことに起因している。

総売上高および営業利益に占める機械事業の構成比率



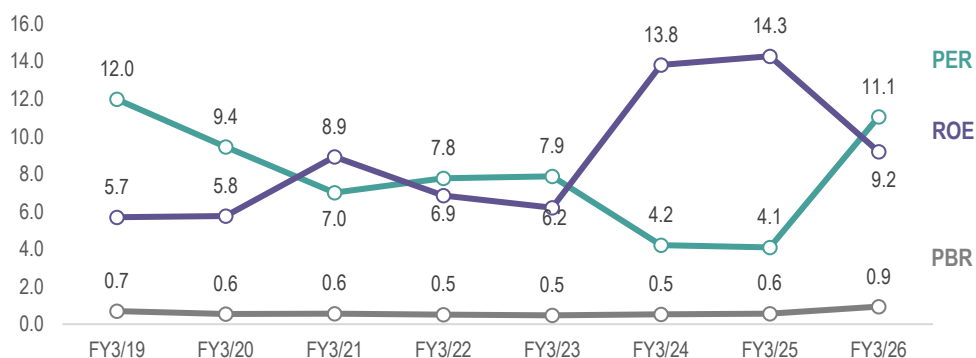
出所: 会社データ、アストリス・アドバイザー

企業価値の向上

古河機械金属の ROE は、過去 2 年間のピークを経て、26 年 3 期には健全な水準である 9.2% に正常化した。一方で、PER は 11.1 倍へと急反発し、市場からの信頼回復を示している。同時に、PBR は数年ぶりの高水準となる 0.9 倍に達しており、株価の着実な再評価を反映している。こうしたマルチプルの拡大は、政策保有株式の売却加速を通じた資本効率の向上とバランスシートの最適化に対する、同社の積極的な姿勢を浮き彫りにしている。極めて重要な点として、この資産圧縮戦略は 26 年 3 期の株主還元的大幅な拡充へ直接的に充当されており、総株主リターン比率を 8.8% に引き上げ、9.2% という堅調な ROE を下支えした 80.7 億円の自社株買いがその主軸となっている。

ROE に改善の兆し

PBR (x), ROE (%), PER (x)



出所: ブルームバーグ、アストリス・アドバイザー

注*: PBR = PER × ROE

27 年 3 月期 会社予想

新予想は以下の通り示している：

- **機械事業：**会社側は、27 年 3 月期の機械事業合計で売上高 1,099 億円（前年比+30.4%）、営業利益 77 億円（同+33.4%）と、大幅な増収増益による全面的な業績回復を見込んでいる。業績の牽引役となるのは、新設されたアーステクニカ部門であり、売上高 212 億円、営業利益 10 億円の新規上乗せを見込む。同部門は環境リサイクル機械分野における中長期的な成長と、安定した碎石・産業機械分野における高い市場シェアに支えられたディフェンシブ性の高い収益を提供し、ポートフォリオの安定化に寄与する。既存部門も総じて復調を想定。産業機械部門は、ベルトコンベヤ等のプロジェクト実行に伴い売上高 189 億円（同+3.5%）、営業利益 18 億円（同+9.4%）を見込む。海外モメンタムが継続するロックドリル部門は、北米向けの油圧ブレーカや油圧クローラドリルの出荷拡大、および一過性の製品不具合対策費用の解消により、売上高 386 億円（同+6.0%）、営業利益 32 億円（同+12.2%）と 2 桁増益を計画。さらに、長らくトラック不足に伸び悩んだユニック部門も、国内の供給回復に伴う架装停滞の解消と東南アジアを中心とした海外需要の取り込みにより、売上高 312 億円（同+5.5%）、営業利益 17 億円（同+33.5%）と大幅な増益を見込んでいる。
- **素材事業：**会社側は、素材事業内における業績の方向性の違いを示唆している。金属部門では、電気銅の生産量が前年同期比で安定して推移するものの、金属価格下落が減収要因になると予想されている。さらに、販売プレミアムの上昇が受託加工利益を押し上げる一方、銅精鉱の製錬加工費（TC/RC）の断続的な縮小が営業利益に対する継続的な逆風となっている。なお、26 年 3 月期にあった金属価格変動影響による価格差益を見込まないため、全体では減益予想としている。対照的に、電子部門は半導体製造装置市場向けの窒化アルミセラミックスの出荷量増加を背景に、力強い拡大を遂げる見通しである。このモメンタムは化成品部門にも反映されており、同社は急成長する AI サーバーサプライチェーンをターゲットに、酸化銅の積極的な拡販戦略を実行している。
- なお、27 年 3 月期より、報告セグメントの業績をより適切に反映させるため、全社費用の配賦方法を変更している。



機械事業の回復見通し

サブセグメント別内訳

機械事業 (10 億円)	FY3/25 1-4Q	FY3/26 1-4Q	前年比 (%)	FY3/27 会社予想	前年比 (%)
産業機械部門					
売上高	22.21	18.27	-17.8	18.90	+3.5
営業利益	2.21	1.65	-25.4	1.80	+9.4
営業利益率 (%)	9.9	9.0		9.5	
ロックドリル部門					
売上高	35.00	36.42	+4.1	38.60	+6.0
営業利益	2.80	2.85	+2.0	3.20	+12.2
営業利益率 (%)	8.0	7.8		8.3	
ユニック部門					
売上高	29.08	29.56	+1.6	31.20	+5.5
営業利益	0.98	1.27	+30.3	1.70	+33.5
営業利益率 (%)	3.4	4.3		5.4	
アーステクニカ部門					
売上高	-	-		21.20	-
営業利益	-	-		1.00	-
営業利益率 (%)	-	-		4.7	-
機械事業合計					
売上高	86.30	84.26	-2.4	109.90	+30.4
営業利益	5.98	5.77	-3.5	7.70	+33.4
営業利益率 (%)	6.9	6.8		7.0	

出所: 会社データ

金属部門は反落の見込み

サブセグメント別内訳

素材事業 (10 億円)	FY3/25 1-4Q	FY3/26 1-4Q	前年比 (%)	FY3/27 会社予想	前年比 (%)
金属部門					
売上高	92.38	103.07	+11.6	101.20	-1.8
営業利益	2.42	3.79	+56.7	0.40	-89.4
営業利益率 (%)	2.6	3.7		0.4	
電子部門					
売上高	6.55	6.95	+6.2	7.90	+13.6
営業利益	0.13	0.37	+192.0	0.80	+119.2
営業利益率 (%)	1.9	5.2		10.1	
化成品部門					
売上高	9.83	10.36	+5.4	10.40	+0.4
営業利益	0.63	0.84	+33.9	0.80	-0.4
営業利益率 (%)	6.4	8.1		7.7	
素材事業合計					
売上高	108.76	120.38	+10.7	119.50	-0.7
営業利益	3.17	4.99	+57.6	2.00	-60.0
営業利益率 (%)	2.9	4.1		1.7	

出所: 会社データ

金属市況と為替変動の動向

(10 億円)	FY3/25 1-4Q	FY3/26 1-4Q	前年比 (%)	FY3/27 会社予想	前年比 (%)
銅価 (\$/トン)	9,370	10,816	+15.4	10,000	-7.5
金価 (\$/オンス)	2,585	3,939	+52.4	4,000	+1.5
ドル円	152.6	150.8		155.0	

出所: 会社データ

銅・金価格の見通し

金属市況と為替変動の動向

(10 億円)	2027	2028	2029
銅価 (\$/トン)			
ブルームバーグ	13,519	13,618	13,609
アストリス	11,000	13,000	13,000
平均	12,260	13,309	13,305
金価 (\$/オンス) – ブルームバーグ	4,700	4,891	5,118

出所: ブルームバーグ予測、2026 年 6 月 2 日時点

ブルームバーグ・コンセンサスと、当社のコモディティ・アナリストであるイアン・ローパー (Ian Roper) の独自予想を組み合わせることで、当社の銅・金価格の前提条件は古河機械金属の 27 年 3 期会社ガイダンスを十分に上回る水準となっている。金価格が 1 ドル／オンス変動するごとに営業利益へ 75 万円の影響が及ぶとする当社の感応度分析に基づくと、会社側の保守的なベースラインと比較して、金価格の上振れに伴う営業利益がさらに 5.2 億円上乗せされると試算している。

金販売価格 4,700 ドルを前提とした営業利益試算

	FY3/25	FY3/26	FY3/27 当社シナリオ
電気銅生産量 (トン)	45,775	44,482	44,682
前年比増減 (%)	-5.2	-2.8	+0.4
銅推定営業利益 (10 億円)	0.38	0.46	-0.05
期中平均金価 (ドル)・販売時点の価格 (ドル)	2,585	3,939	4,700
前年比増減 (%)	+30.0	+52.4	+19.3
金推定営業利益 (10 億円)	1.74	2.76	0.62
価格変動に対する営業利益の感応度		75 万円/金価格 (ドル)	
調整項目	0.30	0.57	0.40
営業利益 (10 億円)	2.42	3.79	0.97
*FY3/27 当社のシナリオは銅+金のみ			
前年比増減 (%)	+24.3		-74.4

出所: 会社、London Gold PM Fix、アストリス・アドバイザー

感応度分析表 – 期中平均金価格と金の推定営業利益の変化

金価格(ドル)	金の推定営業利益(10 億円)
4,000	0.05
4,250	0.23
4,500	0.42
4,700	0.57
4,900	0.72
5,100	0.87
5,300	1.03

出所: アストリス・アドバイザー

注: 単価変動に対する営業利益の感応度を試算するにあたり、金の販売(生産)数量は一定であると仮定している。

当社の業績予想と主な前提条件

当社は 27 年 3 期から 29 年 3 期までの業績予想を修正した。ただし、同社が次期中期経営計画の目標を発表した段階で、さらなる業績予想の見直しを行う予定である。

アストリス・アドバイザリーの業績予想

年度 (10 億円)	FY3/26	FY3/27 CE	FY3/27E (old)	FY3/27E (new)	FY3/28E (old)	FY3/28E (new)	FY3/29E (new)
売上高	211.08	235.70	200.92	237.61	203.95	244.77	253.25
成長率(%)	+4.9	+11.7	+0.5	+12.6	+1.5	+3.0	+3.5
営業利益	11.30	9.00	7.09	9.29	10.07	12.29	12.89
営業利益率 (%)	5.4	3.8	3.5	3.9	4.9	5.0	5.1
EBITDA (10 億円)	16.44	-	11.92	15.00	14.97	18.16	18.96
EBITDA マー ジン(%)	7.8	-	5.9	6.3	7.3	7.4	7.5
FCF (10 億円)	(1.46)	-	4.95	(20.99)	3.97	(7.12)	(5.83)
FCF マー ジン (%)	(0.7)	-	2.5	(8.8)	1.9	(2.9)	(2.3)
FCF コンバ ーション(%)	N/A	-	63.5	N/A	36.9	N/A	N/A
FCF 利回り (%)	(1.1)	-	2.8	(16.0)	2.3	(5.4)	(4.4)
DPS (¥)	80.0	80.0	75.0	80.0	80.0	80.0	80.0
配当利回り (%)	2.0		1.6	2.1	1.7	2.1	2.2
配当性向 (%)	20.8		51.5	32.8	40.0	30.3	29.8
株主総利回り (%)	8.1		1.6	2.1	1.7	2.1	2.2

出所: アストリス・アドバイザリー

当社の業績予想は以下を主な前提としている。

- **売上成長:** 機械事業においては、27 年 3 月期以降、成長市場の環境リサイクル機械を有し、砕石・産業機械分野で高いシェアを誇る、アーステクニカの連結子会社化を主因として、連結売上高の成長が加速する予想である。既存の機械事業についても、ロックドリル部門の牽引に加え、産業機械およびユニック部門の回復によって総じて復調に向かう見込みであり、これが営業利益の拡大をさらに加速させる公算が大きい。同時に、三井三池製作所の持分法適用関連会社化に伴う持分法投資損益の拡大(26 年 3 月期は負ののれん発生益等を含め営業外で 22 億円を計上)も、当期純利益の押し上げに寄与する見通しである。一方、電子および化成部品部門における堅調な構造的成長は、26 年 3 月期の高水準から反落が予想される金属部門の業績一巡の影響を緩和すると期待される。
- **収益性:** 既存の産業機械、ロックドリル、およびユニック部門における受注残高の回復を背景に、機械事業全体の利益成長は継続すると試算している。さらに、新連結となったアーステクニカ部門は、高い市場支配力を背景に利益貢献できる好位置につけている。また、IoT を活用したライフサイクル管理を通じたストック型

収益基盤の拡大により、収益性は一段と向上する見込みである。

- **フリー・キャッシュ・フローの創出**:フリー・キャッシュ・フローの創出は、今後数年間は圧迫される見通しである。金属部門における業績の一元化がキャッシュ創出の足枷となる可能性が高い一方で、機械事業において設備の維持投資および成長投資の双方に向けた、高い水準の設備投資額が同時に必要となるためである。



サマリー

古河機械金属は、
機械と素材の
2つの主要事業を展開
する。

古河機械金属は、機械および素材の2つの主力事業を展開するメーカーである。機械事業では、インフラ工事や鉱山・砕石事業向けの製品を幅広く製造しており、下水ポンプ、ベルトコンベヤ、ロックドリルなどの製品は国内市場で高いシェアを誇る。

従来、金属部門を有する素材事業が、同社の売上の大部分を占めてきた。現在、同社は機械事業の成長を加速させる一方、電気銅の不採算な輸出を大幅削減するため、金属部門の抜本的な見直しを実施するなど、事業ポートフォリオの改革を進めてきた。また、三井三池製作所の持分法適用関連会社化やアーステクニカの連結子会社化など、機械事業を成長分野のコア事業として重点的に投資が行われている。

当社は、24年3月期から26年3月期までの中期経営計画を完了した。債務削減目標を達成したほか、自社株買いの拡大を通じて株主還元目標を上回る成果を上げた。一方で、マクロ経済環境の影響により、利益目標の達成や企業価値の向上においては、非常に厳しい状況が続いた。

なお、新たな中期経営計画(対象期間28年3月期～30年3月期)については、2027年2月下旬に公表予定である。

アストリス・アドバイザーでは、同社が、以下の様な施策に取り組むことにより、中期的成長を推進すると予測している。

- ベルトコンベヤ事業の拡大 – 労働力不足や気候変動問題に対応するポジションを確立。
- 連結子会社のアーステクニカが、環境リサイクル機械市場における成長機会を確実に取り込むことで、機械事業の「第4の柱」となることを期待。
- 製品ライフサイクルサポートとIoT技術を活用した自動化 – スtock収入の創出と顧客の課題解決を推進。
- 海外市場での成長 – ロックドリル部門の米国における需要の増加が成長を牽引。また、東南アジアでの砕石市場創造による中長期的な成長期待。
- 素材事業の高利益率製品へのシフト – 収益性向上に向けた事業構造の最適化。

同社の株式は、当社27年3月期予想 PER 15.2 倍、配当利回り 2.1%、PBR 0.8 倍で取引されている。

JGAAP に基づく要約財務諸表

損益計算書 (10 億円)	期 3/25	期 3/26	期 3/27E	期 3/28E	期 3/29E
売上高	201.22	211.08	237.61	244.77	253.25
売上原価	171.66	178.88	201.96	207.81	212.48
売上総利益	29.56	32.20	35.64	36.96	40.77
売上総利益率(%)	14.7	15.3	15.0	15.1	16.1
営業利益	9.76	11.30	9.29	12.29	12.89
営業利益率(%)	4.9	5.4	3.9	5.0	5.1
営業外収益	2.30	4.98	7.00	3.00	3.00
営業外費用	(2.36)	(2.55)	(4.00)	(2.30)	(2.30)
経常利益	9.71	13.73	12.29	12.99	13.59
特別利益	17.54	7.26	-	-	-
特別損失	(2.03)	(2.39)	-	-	-
税引前当期純利益	25.21	18.60	12.29	12.99	13.59
法人税等	(6.45)	(5.67)	(3.69)	(4.03)	(4.35)
実効税率(%)	66.4	41.3	30.0	31.0	32.0
当期純利益	18.76	12.93	8.61	8.96	9.24
非支配株主に帰属する 当期純利益	0.14	0.15	0.49	0.20	0.20
親会社株主に帰属する 当期純利益	18.62	12.78	8.11	8.76	9.04
売上高前年比(%)	+6.9	+4.9	+12.6	+3.0	+3.5
営業利益前年比(%)	+14.5	+15.7	-17.8	+32.2	+4.9
税引前当期純利益前年 比(%)	+8.4	-26.2	-33.9	+5.7	+4.6
純利益前年比(%)	+15.7	-31.4	-36.5	+8.0	+3.2

貸借対照表 (10 億円)	期 3/25	期 3/26	期 3/27E	期 3/28E	期 3/29E
現金・預金	24.85	21.05	13.98	17.13	23.37
商品	50.80	52.44	69.65	71.75	74.24
売掛金	33.60	24.70	27.80	28.64	29.63
その他	7.51	17.09	19.23	19.81	20.50
流動資産	116.76	115.27	130.67	137.34	147.75
有形固定資産	94.80	95.99	105.35	108.58	113.19
のれん	-	-	-	-	-
無形固定資産	0.33	0.36	0.36	0.36	0.36
投資等	19.90	41.05	41.05	41.05	41.05
その他	25.32	19.71	19.71	19.71	19.71
固定資産	140.35	157.11	166.47	169.70	174.31
資産合計	257.11	272.38	297.14	307.04	322.05
短期借入金	4.61	11.34	11.34	11.34	11.34
買掛金	21.28	17.64	20.41	21.01	21.48
その他	27.23	18.07	26.88	24.59	26.71
流動負債	53.11	47.04	58.64	56.93	59.53
長期借入金	51.73	46.31	46.31	46.31	46.31
その他長期負債	18.69	28.82	28.82	28.82	28.82
長期負債	70.42	75.13	75.13	75.13	75.13
株主資本	130.81	147.23	160.03	171.53	183.83
新株予約権	-	-	-	-	-
非支配株主持分	2.76	2.97	3.34	3.44	3.56
純資産	133.57	150.20	163.37	174.97	187.39
負債・純資産合計	257.11	272.38	297.14	307.04	322.05

出所: 会社データ、アストリスアドバイザリー(予想)

キャッシュフロー計算書 (10 億円)	期 3/25	期 3/26	期 3/27E	期 3/28E	期 3/29E
税引前当期純利益	25.21	18.60	12.29	12.99	13.59
減価償却費	4.84	5.14	5.70	5.87	6.08
運転資金の増減	(5.74)	(6.64)	(6.38)	(5.22)	(1.57)
その他の非現金項目	(18.84)	(7.92)	(7.92)	(7.92)	(7.92)
法人税等支払額	(5.46)	(5.78)	(3.69)	(4.03)	(4.35)
営業活動によるキャッシュフロー	0.01	3.41	0.01	1.69	5.82
設備投資	(7.66)	(4.87)	(21.00)	(8.81)	(11.65)
関係会社株式関連	(0.83)	(2.20)	-	-	-
その他	23.59	9.19	16.39	12.79	14.59
投資活動によるキャッシュフロー	15.10	2.12	(4.61)	3.97	2.94
配当金支払額	(3.13)	(2.40)	(2.66)	(2.66)	(2.69)
社債発行による収入	(2.64)	0.82	-	-	-
株式発行による収入	(3.44)	(8.07)	-	-	-
その他	(0.03)	(0.01)	(0.01)	(0.01)	(0.01)
財務活動によるキャッシュフロー	(9.23)	(9.66)	(2.67)	(2.67)	(2.70)
為替影響	0.33	0.09	0.21	0.15	0.18
ネットキャッシュフロー	6.20	(4.04)	(7.06)	3.15	6.24
フリーキャッシュフロー	(7.66)	(1.46)	(20.99)	(7.12)	(5.83)
EBITDA	14.60	16.44	15.00	18.16	18.96
EBITDA利益率(%)	7.3	7.8	6.3	7.4	7.5
FCFマージン(%)	-3.8	-0.7	-8.8	-2.9	-2.3
FCFコンバージョン(%)	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
設備投資/売上高(%)	3.8	2.3	8.8	3.6	4.6
設備投資/減価償却(%)	158.5	94.7	368.3	150.0	191.7
営業CFマージン(%)	0.0	1.6	0.0	0.7	2.3

主要指標	期 3/25	期 3/26	期 3/27E	期 3/28E	期 3/29E
収益性					
売上総利益率(%)	14.7	15.3	15.0	15.1	16.1
営業利益率(%)	4.9	5.4	3.9	5.0	5.1
当期純利益率(%)	9.3	6.1	3.4	3.6	3.6
ROA(%)	7.2	4.8	2.8	2.9	2.9
ROE(%)	14.3	9.2	5.3	5.3	5.1
ROCE(%)	4.8	5.0	3.9	4.9	4.9
ROIC(%)	1.7	3.4	3.1	3.8	3.7
流動性					
流動比率(倍)	2.2	2.5	2.2	2.4	2.5
クイック比率(倍)	1.2	1.3	1.0	1.2	1.2
負債比率					
D/E レシオ(倍)	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3
ネット D/E レシオ(倍)	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2
自己資本比率(%)	0.5	0.5	0.5	0.6	0.6
インタレスト・カバレッ ジ・レシオ(倍)	18.1	20.2	13.4	16.4	9.7
ネットデット/EBITDA(倍)	2.2	2.2	2.9	2.2	1.8
バリュエーション					
EPS(公表値)(円)	510.64	384.65	244.3	263.8	272.1
PER(倍)	7.3	9.7	15.2	14.1	13.7
希薄化後 PER(倍)	7.3	9.7	15.3	14.2	13.7
DPS(円)	70.0	80.0	80.0	80.0	81.0
配当性向(%)	13.7	20.8	32.8	30.3	29.8
配当利回り(%)	1.9	2.1	2.1	2.1	2.2
株主還元利回り(%)	4.7	8.8	2.1	2.1	2.2
FCF 利回り(%)	(6.3)	(1.2)	(17.3)	(5.9)	(4.8)
希薄化後 FCF 利回り(%)	(6.3)	(1.2)	(17.3)	(5.9)	(4.8)
PBR(倍)	0.9	0.8	0.8	0.7	0.7
EV/売上高倍率(倍)	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5
EV/EBITDA 倍率(倍)	8.9	7.9	8.7	7.2	6.9
EV/EBIT 倍率(倍)	13.3	11.5	14.0	10.6	10.1
EV/FCF 倍率(倍)	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A



免責事項

本レポートは、アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社が作成したものです。本レポートは、アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社が信頼できると考える公開情報源から入手した情報に基づいていますが、独自検証は行っていない、その正確性や完全性について保証、表明、保証をするものではありません。本レポートは、当該企業について述言及すべき全事項を記載したものではなく、また、記載を試みるものでもありません。ここに記載された意見は、本レポート作成時点におけるアストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社の判断を反映したものであり、予告なく変更される場合があります。本レポートに記載されている将来の見通しに関する情報または記述には、仮定、今後の業績予測、未確定な金額見積もりなどに基づく情報が含まれているため、既知および未知のリスク、不確実性および、このテーマに関する実際の結果、業績または成果が現在の予想とは大きく異なる可能性をもたらすその他要因が含まれています。

本レポートは概説として作成されたものであり、特定の金融商品または戦略を個人的に推奨するものではなく、また個人的な投資アドバイスを構成するものでもありません。

アナリストは、(i) 本レポートで表明する見解は、本レポートの対象である企業および証券に関する当該リサーチアナリストの個人的見解を正確に反映していること、(ii) 当該リサーチアナリストの報酬のいかなる部分も、直接的にも間接的にも当該リサーチアナリストが本レポートで述べた見解に過去、現在、未来を通して関連しないことをここに証明します。

本レポートは、日本法に基づき設立され、日本の金融庁の監督下にあるアストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社により作成されました。現地当局による規制範囲に関する詳細をご要望の場合は、弊社から入手可能です。

利益相反

本レポートは、当該企業が委託して費用を負担したものであり、MiFID II で定義される許容可能な軽微な非金銭的利益に該当すると判断されるものです。

読者は、アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社が、現在、もしくは今後 3 ヶ月以内およびその後、当該企業に対して IR/コーポレート・アドバイザリーなどのサービスを提供する、または提供することを求める可能性があることを前提とする必要があります。

記載金融証券への投資: アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社は、取締役、役員、従業員およびサービスプロバイダーの個人的な取引について制限的な方針をとっています。アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社は、投資業務を行っておらず、本レポート記載の金融証券は一切保有していません。

責任制限

アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社は、本レポートに基づき投資家が行った投資、売却、保有の決定に関して、いかなる責任も負わないものとします。アストリス・アドバイザリー・ジャパン株式会社は、本レポートの情報に起因する直接的、間接的、偶発的、特別、または結果的損害(予見可能か否かを問わず)に対して、一切の責任を負わないものとします。

Copyright 2026 Astris Advisory Japan K.K. All rights reserved.

全著作権所有。無断転載禁止